

博士(文学)学位請求論文審査報告要旨

論文提出者氏名	下司忠大
論文題目	Dark Triad の統合モデルの提案とその妥当性の検討
<p>審査要旨</p> <p>博士学位請求論文『Dark Triad の統合モデルの提案とその妥当性の検討』は、マキャベリアニズム、サイコパシー、自己愛という3つのパーソナリティ特性のまとめである Dark Triad に注目し、その概念モデルの提唱と検証を行ったものである。</p> <p>本論文は、以下の9章で構成されている。</p> <p>第1章は、これまでに先行研究で提唱された Dark Triad の3つのパーソナリティ特性それぞれについてその内容と構造モデルをまとめている。それぞれのパーソナリティ特性には独自の内容と構造があることが示されている。第2章は、Dark Triad 概念を研究してきた歴史的な変遷がまとめられ、その是非、現在の検討課題、測定尺度、そして他の心理学的な変数との関連、さらに日常的な様々な変数との関連の研究状況がまとめられている。Dark Triad を用いた研究はこれまで多岐にわたる領域で行われており、教育場面やネット上での問題を含む行動群に関連することが示されてきている。第3章では、この論文における独自の Dark Triad に関する概念モデルが提示される。このモデルは、Dark Triad の共通した特徴を背景に、目標や動機づけの側面とそこから生じる具体的な行動、そしてその行動の結果生じる報酬という一連のプロセスが、それぞれのパーソナリティ特性に応じて生じることが想定されている。本モデルは先行研究に基づく申請者独自のものであり、本学位申請論文の根幹をなすものである。第4章では、先行研究を踏まえた上で残された問題が整理され、全体的な目的が示される。個々の先行研究の結果からは、本論文で提示される概念モデルを部分的に支持する知見が得られている。そこで、残された問題を実証的に検討することによって、Dark Triad の概念モデルの妥当性を検討することが本論文の全体的な目的であることが述べられる。第5章では、Dark Triad の測定尺度である Short Dark Triad(SD3)の日本語版の作成が試みられる。調査にもとづいて因子構造が検討され、信頼性および他の尺度との関連から妥当性が検討された。日本語版の SD3 は Dark Triad の3特性を測定するのに適した尺度であることが示されている。第6章では、Dark Triad と対人戦略との関連が検討されている。まず、Dark Triad と他者操作方略との関連に焦点があてられ、次に対人葛藤方略に焦点があてられた。Dark Triad のそれぞれの特性は特徴的な対人戦略に関連することが示された。第7章では、反社会性に注目して Dark Triad との関連が検討されている。ひとつは攻撃性であり、もうひとつは環境に対する悪影響を及ぼす行動である。Dark Triad のうち特にマキャベリアニズムが攻撃性に、サイコパシーが環境に悪影響を及ぼす行動に関連することが示された。第8章では、Dark Triad と社会適応性との関連が検討された。Dark Triad のようなパーソナリティ特性が仮定される理由を考慮すると、社会の中で何らかの適応的な側面に関連すると考えられる。そこで、ライフスキルとの関連、およびコーピングスタイルとの関連が検討された。結果から、Dark Triad に特有の適応戦略が示唆された。第9章では総括的討論として、得られた結果から Dark Triad の概念モデルが再度検討された。ここでは、Dark Triad モデルの意義と問題点、特徴的なパーソナリティ特性としての進化的基盤、環境的影響、そして本研究の限界と今後の課題が述べられた。</p> <p>本論文は、日本において十分に検討されてきていない Dark Triad の3つのパーソナリティ特性を包括的に捉え、独自の概念モデルにもとづいてその意義を実証的に明らかにしようと試みたものである。残された課題はあるものの、詳細な検討は学問的な意義も十分に認められるものであると評価することができるだろう。</p>	

氏名 下司忠大

論文審査に際しては、博士論文公開審査会を、2020年5月16日(土)午後2時より、早稲田大学 Moodle 内の Collaborate を利用し、オンラインで実施した。公開審査会においては、発表者、主査および2名の副査、聴講者8名の計12名であった。

公開審査会では、博士学位請求論文の内容について約50分間の発表が行われ、その後、活発な質疑応答が行われた。議論の内容は、新たに構成された統合的なモデルから人間をどのように説明するのか、またそのモデルを実証していくプロセスにおける問題点、さらに、臨床的なパーソナリティ概念と一般的なパーソナリティ概念との対応やその中での議論の仕方など、多岐にわたっていた。特に副査からは今後の研究につながる意見も多数出され、申請者との意見交換が行われた。

公開審査会後、Collaborate のブレイクアウトグループ機能を利用し、別の部屋を構成し、主査および副査2名で審査委員会を開催した。博士学位請求論文および公開審査会の発表内容について議論を行い、その内容が申請者の博士学位取得にふさわしいものであることが確認された。

以上の論文内容および審査の結果を踏まえた上で、本論文は博士(文学)早稲田大学の学位を授与するに値するものと判断する。

公開審査会開催日	2020年5月16日			
審査委員資格	所属機関名称・資格	氏名	専門分野	博士学位
主任審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	小塩 真司	発達心理学, パーソナリティ心理学	博士(名古屋大学)
審査委員	日本女子大学人間社会学部・教授	川崎 直樹	臨床心理学, パーソナリティ心理学	博士(筑波大学)
審査委員	早稲田大学文学学術院・教授	福川 康之	健康心理学	博士(早稲田大学)